RILAC 荒川区自治総合研究所 訪問記録

一般財団法人CSOネットワーク

2019年8月29日(木)

＊本記録は、CSOネットワークが荒川自治総合研究所訪問した記録としてまとめたものであり、資料中の全ての記述・表現の責任は当財団にあります。

荒川区民総幸福度(GAH)について

- **荒川区民総幸福度（GAH）とは**

区民の幸福実感を測るために作成された指標。指標を測定・分析することにより、区民の幸福実感がより向上するような区政運営につなげていくことを目的としている

- 幸福実感指標を測定する区民アンケート調査

2013年から毎年実施（2006年から2012年までは区政世論調査の中で幸福度調査を実施）

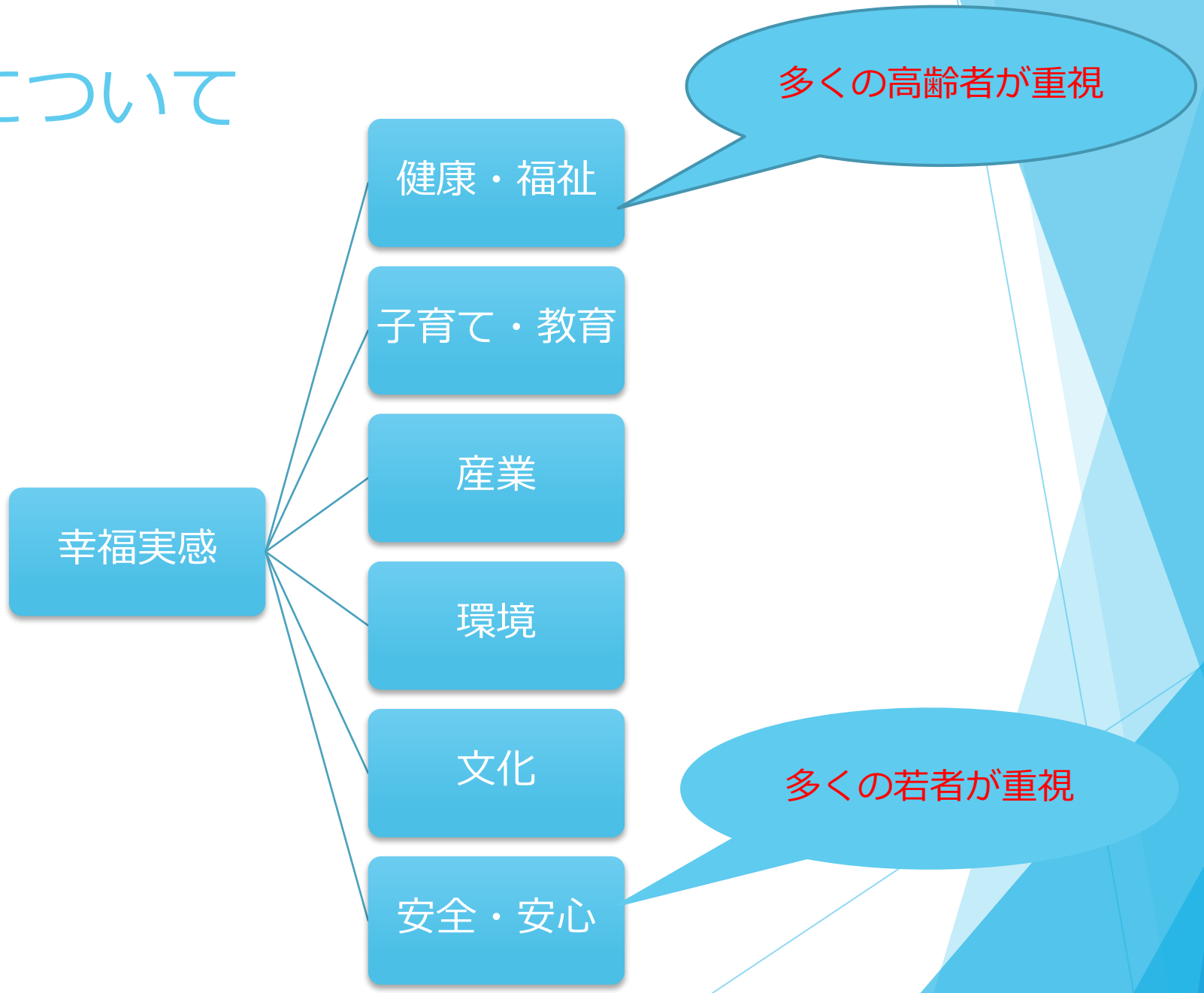
- 調査対象

荒川区民21万人のうち4,000人

対象抽出方法：区内在住の20歳以上(2016年度以降は18歳以上)の男女から層化2段階無作為抽出

- 回収率は年平均46.7%（2013年度から2017年度にかけての平均値）

幸福度指標について(GAH指標)



GAH指標 区民調査を活用した取り組み
①家族で参加できる防災訓練「あらBOSAI」

区民調査

- 地域活動に積極的に参加している人ほど幸福度が高い
- 災害時の地域の助け合いに不安を感じている人が多い

現実

- 防災に関心の高い若い世代が平日の防災訓練には参加しづらい
- 子育て世代が親子で参加できるプログラムになっていない

実行

- 休日にアトラクション形式の防災訓練「あらBOSAI」を3月に実施
- 荒川区民21万人中8,000人が参加。バケツリレーや自衛隊カレーによる炊き出しも。

家族で参加できるまちづくり

GAHに関連した地域活動の取り組み
②中学校の防災部

現状
- 町内会の役員の高齢化

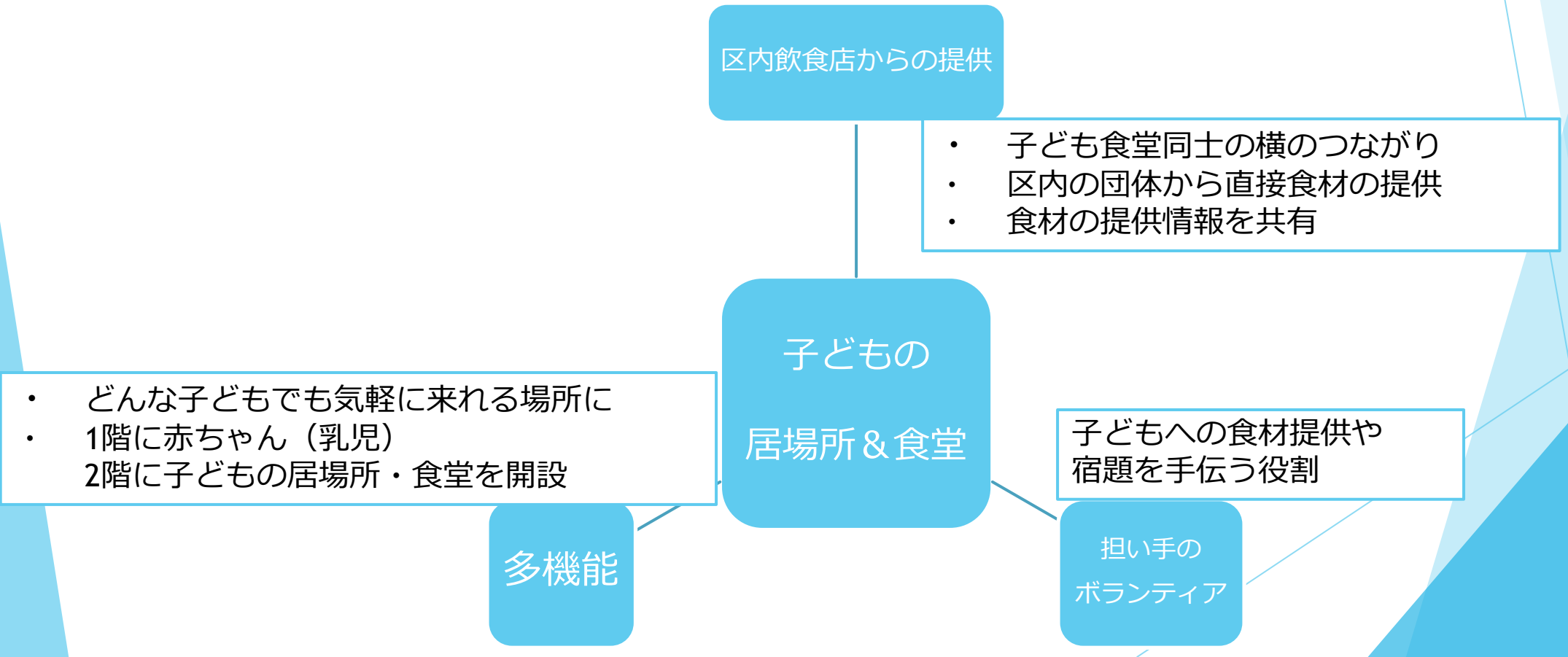
具体案
- 区内の全中学校に防災部の設置
- 中学生の活動を通じて保護者にも地域の防災活動に関心を持ってもらう

現在
- 地域の高齢者を中学生が訪問し、日頃から安否確認を行う
- 釜石市と交流。中学生が主体となった防災シンポジウムの開催

地域住民の防災意識の向上 ＆ 地域の結束力の向上

GAHに関連した地域活動の取り組み
③子どもの居場所＆食堂

- 背景:家族の形の多様化による子どもの居場所の減少。子どもの食生活の悪化。
- 対策: 区内にある一戸建てを活用し、「子どもの居場所＆子ども食堂」を開設



GAHに関連した地域と行政の連携
④満点メニューの開発と普及

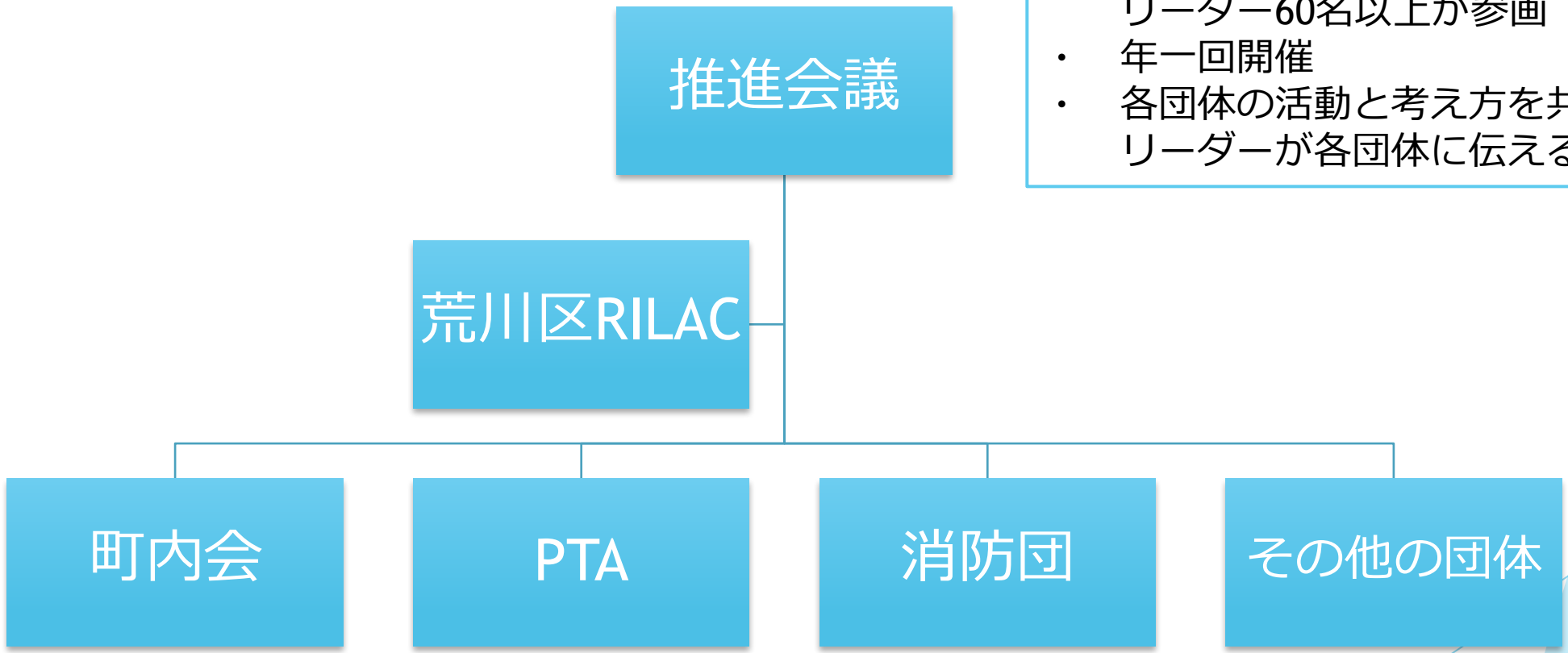
- 施策：区内飲食店と区内にある女子栄養大学短期大学部、及び区が連携し
  「安くて、おいしくて、ヘルシー」をコンセプトに、お店の味を生かしたメニューを開発。
  栄養バランスの取れたメニューとして認定。

- 推進普及：区内約60店舗の認定メニュー 「満点メニュー」として、区報やチラシを通じて発信し、
  食生活に関心を持ってもらうよう働きかけ。現在区役所内食堂にも認定メニューがある。

- 評価：GAH区民調査から、40代男性の食生活への意識が低いことが確認され、施策の妥当性を確認

GAH推進リーダー会議について

- 町内会やPTA、消防団などあらゆる団体のリーダー60名以上が参画
- 年一回開催
- 各団体の活動と考え方を共有し、リーダーが各団体に伝える



GAH指標の現状と課題

- GAH区民アンケート調査結果について

  データの傾向に毎年大きな変化は見られないが、確認することに意義がある

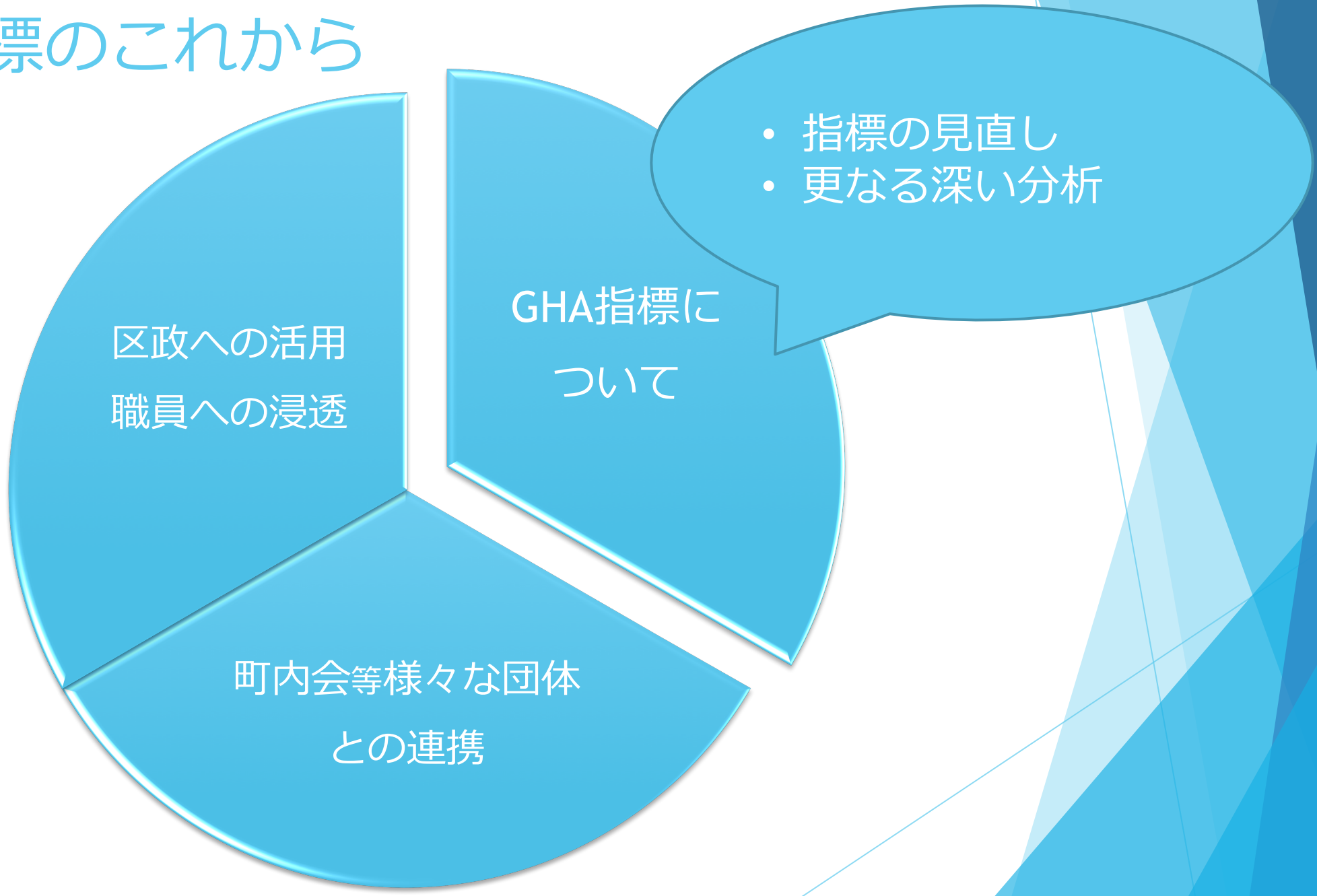
- GAH指標の活用の限界

  予算等の制約もあり、具体的な施策につなげることは難しい

- 地域の人々へのGAHの普及

  GAH推進リーダー会議のメンバーも含め、年齢・性別等多様な人々の参加は課題

GAH指標のこれから



幸せリーグ
～住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合～

- **住民の幸福を政策の基本に据えた取り組みをしている、あるいは検討している基礎自治体間の、緩やかな連合体**
- 基礎自治体同士が助け合い学び合いながら、政策の互換性を高め、向上していくことを目的に、2013年に発足。年１回の総会の他、実務者会議を開催。
- 総会では、講演会や情報交換を実施。実務者会議では、テーマ毎に分かれ政策に関する議論を実施。
- 実務者会議のあるグループでは、横軸に幸福度の実感度、縦軸に自治体の施策実行度をとった分析やアンケートのクロス集計結果を発表している。
- 自治体職員がお互いの政策に関する情報交換を行ったりネットワークづくりの場となっている。

幸せリーグウェブページ：https://rilac.or.jp/shiawase/